

## ふるさと水土里ふれあいの旅2021

令和3年6月23日（水）に青森市の六枚橋、後潟、四戸橋地区で環境公共推進プロジェクト「ふるさと水土里ふれあいの旅2021」を開催しました。

この活動は、東青地域農林水産部と青森北部、第二北部、奥内土地改良区が企画したイベントで、青森市北小学校の5年生（18名）の児童を対象に、地域にある頭首工、ため池などの農業水利施設の見学や、その周りに生息する生き物の観察、環境公共の取組、水源林や水循環の役割について学ぶ野外学習会として開催されました。

本イベントは、平成16年から行われてきた土地改良区の施設見学会をベースにし、地域の3つの小学校の統廃合により北小学校が開校となったことを契機に、環境公共推進プロジェクトとしてパワーアップさせて企画したものです。

当日は朝から雨がちらつくあいにくの天気でしたが、児童の皆さんは雨具と帽子を着用し、万全の態勢で参加していました。

最初は、山城ため池で農業用ため池や水源林の役割について説明がありました。水源林の説明では、東青地域農林水産部林業振興課から、山は自然のダム役を果たしており、水が地中を通り、ゆっくりと流れだすことで、きれいに浄化され、おいしいお米や野菜がとれることにつながると説明があり、皆さん真剣に聞いている様子でした。

続いて、2班に分かれて生き物観察と水質調査を行いました。水質調査は、ため池の水を試験薬を用いてpH（水素イオン濃度：酸性、アルカリ性の程度）と、COD（化学的酸素要求量：水の汚れ具合）を測定し、水質を調べました。



出発式後に全員で記念撮影



山城ため池の説明

生き物観察では、水槽に入ったタニシや、カエル、メダカなどを観察しながら、環境公共プロフェッショナルの工藤智さんの説明を聞き、普段、聞くことのできない貴重な話に皆さん興味津々に聞き入っていました。



水源林の説明



水質調査の様子



生き物観察の様子

山城ため池での学習後は、後潟川頭首工へと移動し、青森北部土地改良区から頭首工の役割、仕組みについて説明を受けました。

ここでは、実際に児童の代表2名が頭首工の洪水吐ゲートの開閉操作を体験しました。操作盤のボタンを押しゲートが持ち上がると、水が勢いよく川へ流れ出し、その瞬間、管理橋で見ていた児童達の大きな歓声が沸き起こり、皆さん大興奮の様子でした。

さらにここでも、生き物観察と水質調査を行いました。生き物観察では、イワナや大きなナマズなどを間近で見ることができて、貴重な体験になったのではないかと思います。

また、水質調査では、先ほど山城ため池で測定した水質と比較して、場所によってどのように変化しているのかを確認しました。





洪水吐ゲートから放流する様子



生き物調査の様子

次に、青森市農業振興センターに移動し、東青地域農林水産部農村計画課から、環境公共の取組と水循環について説明がありました。説明の中で、水は私達の暮らしの中で何度も循環しており、みんなで水を大切にする「環境公共」の取組を行うことが水をきれいにする上で重要であるといった説明がありました。

続いて、第一分水工へ移動し、水争いの歴史について説明を受けました。説明の中で、分水工ができる以前は、水を求めて争いが起きていたことを教えてもらい、水の大切さを改めて実感していました。



水循環の説明



分水工にて水争いの説明

その後、地区内田んぼの小用水路へ移動し、最後のプログラムとなるアヒル競争を行いました。アヒル競争は、約900mの直線の小用水路にアヒルのおもちゃを流して順位を競いながら、田んぼの中を流れる水路にはどれくらいの速さで水が流れているのか感じてもらうものです。児童の皆さんは、各々工夫を凝らしてペイントしたオリジナルのアヒルを準備しており、そのアヒルを合図で一齐に水路に流しました。

レースでは、アヒルの順番が入れ替わる度に、子供達から大きな声援が上がり、白熱したレース展開に皆さん夢中になっている様子でした。

イベント終了後は、北小学校へ戻り解散式で今回の野外学習会の振り返りを行いました。

児童の代表からの挨拶では、水を大切にしていきたいとの感想が述べられ、今回の野外学習会が皆さんにとって有意義なものになったのではないかと思います。



アヒル競争の様子



解散式の様子

「環境公共」HP

<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

